

河川の概要

横浜といえば、ランドマークタワーや赤レンガ倉庫のある臨海都市部をイメージしますが、実は山と坂が多い街です。例えば、箱根駅伝。2区は鶴見から戸塚へ横浜市内を走り抜けます。前半は平坦な道が続く一方、後半には権太坂といった高低差のある難所が待ち受ける、地形的に走りづらい道となっています。これは横浜市が、丘陵地、台地、低地、埋立地で構成される、起伏の富んだ地形であるからです。

横浜市の中央から西側には、北は東京都町田市から連なる多摩丘陵が、南は円海山を形成する三浦丘陵へ帯状につながっています。この丘陵地帯は主要河川の源流域となっており、丘陵地帯を境に東側へ流れる河川は、中心市街地を構成する低地で支川を集め東京湾へ、西側へ流れる河川は鎌倉市や藤沢市を流れながら本川と合流して相模湾へ流れ込みます。

具体的には、鶴見川・入江川・滝の川・帷子川・大岡川・宮川・侍従川が東京湾へ、境川は相模湾の江の島に流れ込みます。また、これらの本川に合流する大小様々な支川も合わせ、市内には56の河川があります。

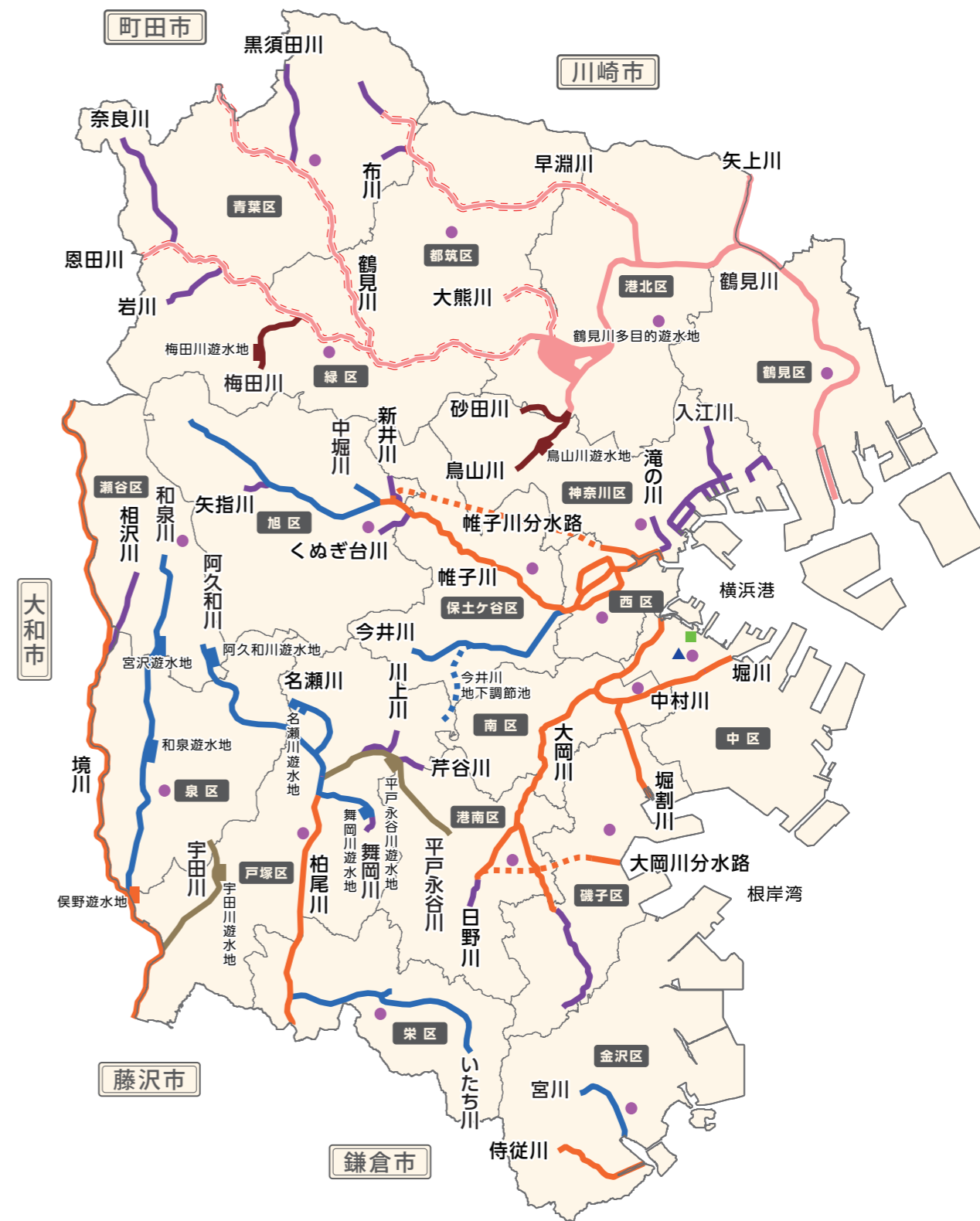
それぞれの河川は一級、二級、準用河川として、国、県、市が管理していますが、それ以外にも地域に根付き、川の名前が付けられている水路もあります。

街を歩けば、おそらく川を見ない日はないといえるほど、たくさんの川が流れ、市民の生活の一部となっています。



春の大岡川

横浜市河川図



凡例					
—	一級河川	国土交通大臣管理区間	—	二級河川	市長管理区間
- - -	一級河川	県知事管理指定区間	—	準用河川	市長管理区間
—	一級河川	市長管理区間	■	県庁	
—	二級河川	県知事管理区間	▲	市庁舎	
—	二級河川	県知事管理 市長施工・維持区間	●	区役所	

河川事業のあゆみ



横浜の川の多くは川幅の小さい中小河川で、都市部を流れています。そのため大雨時には私たちの生活に被害をもたらす危険性を持ち合わせています。

江戸時代から、鶴見川や境川などでは大きな水害が発生しており、特に終戦から10数年は水害が頻繁に繰り返されていました。

このような被害を防ぐため、河川改修は戦災復興とともにスタートしました。

戦後は、経済発展に伴う急速な都市化と宅地開発の急増により、雨水の地表面への流出量が増大し、多くの水害をもたらしました。そこで、昭和45年から都市小河川改修事業を展開し、本格的に河川整備を進めました。現在では整備が進み、浸水被害は確実に減少しています。

このように緊急の課題であった治水については、一定の成果を上げています。しかし、気候変動による集中豪雨や大型台風の発生が頻発化する傾向にあるため、今後も河川改修を着実に進めていくとともに、大雨を一時的に貯めるための雨水調整池の設置などによる総合的な治水対策を進めていく必要があります。



一方で、河川は都市に残された貴重な水辺空間であり、癒しとおいしい水を与えてくれる身近な自然環境でもあります。下水道の整備により川の水質が改善されたことから、人々の目は再び川に向けられ始めました。

このような、河川環境の保全・創造という新たな社会ニーズに応えるため、横浜市では様々な河川環境整備を進めてきました。周辺の自然環境との調和を意識するとともに、地域の要望なども反映しながら親水拠点や散策路などを整備しており、市民の憩いの場として利用されています。

近年では、過去に整備した護岸や施設の老朽化が問題となっており、将来にわたって安全安心な河川として維持していくことが課題です。

本市では、すべての管理河川を毎年点検し、安全性を確認しています。また、護岸崩落などの大きな事故につながる可能性の高い不具合は、積極的かつ計画的に補修する、いわゆる予防保全型の維持管理によって老朽化対策に取り組んでいます。

横浜市はこれからも、市民の皆様の安全安心を確保するとともに、大都市の中の貴重な水辺空間を、将来にわたって守っていきけるよう、河川事業に取り組んでいきます。



鶴見川水系

鶴見川は、延長約43km、流域面積約235km²の一級河川です。源流は、多摩丘陵の一角の東京都町田市にあり、横浜市内で恩田川、大熊川、鳥山川、早淵川、矢上川と合流し、鶴見区で東京湾に注いでいます。

その流域は、約70%が丘陵地と台地、残りの30%が低地で、形がバクに似ていることから、「バクの流域」という愛称で親しまれています。

中流部には、敷地の中に日産スタジアムもある鶴見川多目的遊水地があり、大雨時には洪水を大量に貯留し、下流域を浸水から防御しています。



多目的遊水地(新横浜公園)

鶴見川水系(市内延長)

河川名	国土交通大臣管理	県知事管理	市長管理	計
鶴見川	17,400(m)	13,100(m)	-(m)	30,500(m)
恩田川	-(m)	7,600(m)	-(m)	7,600(m)
梅田川	-(m)	-(m)	2,200(m)	2,200(m)
鴨居川	-(m)	100(m)	-(m)	100(m)
大熊川	-(m)	2,840(m)	-(m)	2,840(m)
鳥山川	1,870(m)	-(m)	2,310(m)	4,180(m)
砂田川	-(m)	-(m)	1,470(m)	1,470(m)
早淵川	1,790(m)	7,980(m)	-(m)	9,770(m)
矢上川	1,800(m)	1,000(m)	-(m)	2,800(m)
計 9 河川	22,860(m)	32,620(m)	5,980(m)	61,460(m)
準用河川				
黒須田川	-(m)	-(m)	2,820(m)	2,820(m)
奈良川	-(m)	-(m)	3,470(m)	3,470(m)
岩川	-(m)	-(m)	1,980(m)	1,980(m)
早淵川	-(m)	-(m)	1,020(m)	1,020(m)
布川	-(m)	-(m)	780(m)	780(m)
計 5 河川	-(m)	-(m)	10,070(m)	10,070(m)

梅田川

梅田川は、緑区の三保町付近を源流として北東に流れ、新治町で恩田川と合流します。

上流域には横浜市「緑の10大拠点」のひとつである三保・新治地区があり、自然の地形を生かした「三保市民の森」や「新治市民の森」などのまとまった緑地があります。中・下流域は、住宅地が広がり、恩田川合流付近には水田を中心とした農地が残っています。

上流部には洪水を一時的に貯留する梅田川遊水地が整備されています。



▲梅田川遊水地



▲梅田川橋上流

鳥山川

鳥山川は、神奈川区羽沢町付近を源流としてJR東海道新幹線と並行して流れ、港北区新横浜で鶴見川と合流します。

上流域には農地が比較的多く残りますが、中・下流域はJR東海道新幹線と環状2号線といった都市施設や密集家屋が近接しています。

中流部には洪水を一時的に貯留する鳥山川遊水地が整備されています。



▲砂田川合流点付近



▲環状2号線との交差点

かた びら がわ
帷子川水系

帷子川は、旭区で生まれ横浜駅東口まで、横浜を西から東へ流れる延長約17km、流域面積約57km²の二級河川です。

源流は旭区の若葉台団地付近で、矢指川、中堀川、新井川、くぬぎ台川、今井川などの支川と合流した後、西区内で石崎川、新田間川に分派し、横浜駅近くで再び合流し、横浜駅東口ポートサイド地区で横浜港に注ぎます。

帷子川の名の由来は、その昔、北側の河口部沿岸がなだらかで、片側だけが平地だったことから、「片平(かたひら)」の名が起り、それが「帷子」となったといわれています。



帷子川水系

河川名	県知事管理	市長管理	計
帷子川	17,340(m)	-(m)	17,340(m)
中堀川	850(m)	-(m)	850(m)
今井川	5,590(m)	-(m)	5,590(m)
石崎川	1,600(m)	-(m)	1,600(m)
新田間川	2,200(m)	-(m)	2,200(m)
幸川	300(m)	-(m)	300(m)
帷子川分水路	6,610(m)	-(m)	6,610(m)
計 7 河川	34,490(m)	-(m)	34,490(m)
矢指川	-(m)	540(m)	540(m)
くぬぎ台川	-(m)	1,190(m)	1,190(m)
新井川	-(m)	800(m)	800(m)
計 3 河川	-(m)	2,530(m)	2,530(m)

なか ぼりがわ
中堀川

中堀川は旭区上白根付近の源流部から南下して、帷子川に合流する河川です。周辺はほとんどが市街地となっており、川の近くまで住宅が近接しています。

中流部には、「白糸の滝」があります。その昔、幅約9m、落差5.5mの大きな直滝が旭区白根地区にあったといわれており、長い間の浸食により斜路となっていました。滝の修復・保全と周辺の公園整備とが一体となった魅力的な親水空間として整備され、平成3年度に完成しました。



▲白糸の滝



▲住宅地を流れる中堀川

分水路

大雨により川に流れ込む水が増えると、川の水位が上がり、洪水が起こります。このような事態を防ぐため、川の水の一部を分け、直接海に流す施設を「分水路」といいます。

横浜市には、帷子川分水路と大岡川分水路があり、どちらの施設も抜本的な治水対策として横浜市と神奈川県との協調事業で建設されました。



▲帷子川分水路入口



▲帷子川分水路のトンネル内部

おお おか がわ
大岡川水系

大岡川は、延長約14km、流域面積約35km²の二級河川です。

大岡川は円海山を源流とし、磯子区氷取沢市民の森を流れ出て日野川と合流し、南区で中村川と堀割川に分流します。大岡川の本流は、中区の日の出町、野毛の市街地を流れ、みなとみらい21で横浜港に注ぎます。

大岡川と中村川に囲まれたところには、伊勢佐木町・馬車道・中華街・横浜スタジアムがあり、市役所や県庁・横浜税関・県警本部などもあるため、大岡川は横浜の心臓部を流れる川といえます。



▲中流（青木橋上流）



▲河口付近

大岡川水系

河川名	県知事管理	市長管理	計
大岡川	10,540(m)	-(m)	10,540(m)
日野川	1,900(m)	-(m)	1,900(m)
二級河川			
中村川	3,000(m)	-(m)	3,000(m)
堀割川	900(m)	-(m)	900(m)
堀割川	2,700(m)	-(m)	2,700(m)
大岡川分水路	3,640(m)	-(m)	3,640(m)
計 6 河川	22,680(m)	-(m)	22,680(m)
準用河川			
大岡川	-(m)	3,500(m)	3,500(m)
日野川	-(m)	970(m)	970(m)
計 2 河川	-(m)	4,470(m)	4,470(m)

おお おか がわ
大岡川

大岡川下流区間は、都市部における貴重な水辺のオープンスペースとなっています。北仲通地区の「大岡川夢ロード」や黄金町駅周辺地区の「大岡川桜栈橋」などの親水施設が整備されており、地域の様々なお祭りやイベントで利用されています。



▲大岡川 夢ロード



▲大岡川桜栈橋（利用の様子）

吉田新田

江戸時代初め、大岡川の河口は今よりもっと内陸のお三の宮あたりで、伊勢佐木町一帯は釣鐘状の入江でした。この入江を江戸の材木商 吉田勤兵衛らが埋め立て、1667年に完成したのが吉田新田です。これにより、新田の北側に大岡川が延び、南側には中村川ができました。時は明治に移り、人口増加とともに新田は市街地へと姿を変えていきました。



▲吉田新田埋め立て以前



▲現在の地図と重ねた図

境川水系

境川は、神奈川県相模原市緑区の城山湖付近を源流とし、相模原市と東京都町田市、横浜市と大和市、藤沢市の境を流れて江の島近くで相模湾に注ぐ、延長約52km、流域面積約211km²の二級河川です。

境川という名称は、その昔、この川が相模の国と武蔵の国の境界だったためつたといわれています。現在も、神奈川県と東京都の、さらに神奈川県内のいくつかの市の境界線となっています。

横浜市内で境川へ合流する川は、相沢川、和泉川、宇田川です。また、阿久和川、名瀬川、平戸永谷川、舞岡川、いたち川は柏尾川に合流したあと、藤沢市内で境川に合流します。



▲柏尾川合流点付近（写真提供：神奈川県）

境川水系（市内延長）

河川名	県知事管理	市長管理	計
境川	18,300(m)	-(m)	18,300(m)
和泉川	9,510(m)	-(m)	9,510(m)
宇田川	-(m)	3,520(m)	3,520(m)
二級河川			
柏尾川	7,030(m)	-(m)	7,030(m)
平戸永谷川	-(m)	4,920(m)	4,920(m)
阿久和川	5,510(m)	-(m)	5,510(m)
名瀬川	2,210(m)	-(m)	2,210(m)
舞岡川	1,640(m)	-(m)	1,640(m)
いたち川	7,180(m)	-(m)	7,180(m)
計9河川	51,380(m)	8,440(m)	59,820(m)
準用河川			
相沢川	-(m)	2,158(m)	2,158(m)
芹谷川	-(m)	800(m)	800(m)
川上川	-(m)	1,470(m)	1,470(m)
舞岡川	-(m)	510(m)	510(m)
計4河川	-(m)	4,938(m)	4,938(m)



宇田川

宇田川は、泉区中田町付近を源流とし、ほぼ南西に流下、戸塚区俣野町で境川に合流しています。

中流部にはまさかりが淵、市民の森等の緑地が多く、境川合流点付近には水田や畑が今も残っています。また、まさかりが淵の少し上流には、洪水を一時的に貯留する宇田川遊水地があり、平常時はビオトープや公園として利用されています。



▲まさかりが淵



▲宇田川遊水地

平戸永谷川

平戸永谷川は、港南区野庭町付近を源流とし、戸塚区柏尾町で阿久和川と合流して柏尾川となります。

上流部は環状2号線と、下流部は国道1号やJR東海道線と、ほぼ並行して流れる河川です。改修に伴い発生した旧河川敷の一部は、せせらぎのあるプロムナードとして整備されており、交通量の多い環状2号線沿いのやすらぎある空間として親しまれています。

中流部には平戸永谷川遊水地があり、洪水時に水を貯めるほかに、平常時は野球などができるグラウンドとして活用されています。



▲環状2号線と並走する上流部



▲平戸永谷川遊水地

その他の水系

みやがわ 宮川

宮川は、金沢区釜利谷町付近を源流として東に向かい平潟湾に注ぐ、延長約2.0kmの二級河川です。

上流付近は交通の便が良いため大規模な開発が進み、著しく都市化されていますが、近くに「金沢市民の森」や「金沢自然公園」があり、横浜市内でも最も緑の多い地域に接しています。

中流は、右岸に住宅地が、左岸に商業施設が林立しています。

下流の金沢文庫駅から国道16号にかけては、公共・文化・商業施設が集中し、区の中心部となっています。



▲桜橋



▲住宅地を流れる宮川

いりえがわ 入江川

入江川は、鶴見区東寺尾付近を源流として西に流れ、神奈川区西寺尾付近で南に流れを変え、神奈川区子安通で6派川の運河に分かれ横浜港に注ぐ、延長約2.3kmの準用河川です。

上流部は多くが暗渠化され、その上部は水再生センターで処理された再生水を活用したせせらぎ緑道となっています。

河口部は遠浅であったため、明治時代の工業化の勢いで私企業による臨海部の埋立が進められ、埋立地との間が派川(運河)として残されています。



▲入江川下流



▲入江川中流

じじゅうがわ 侍従川

侍従川は金沢区朝比奈の森を源流とし、同区内の平潟湾に流れ込む延長約2.6kmの二級河川です。川の始まりと終わりがともに金沢区内であり、地域に密着している川です。

この流域は海や森に近く、開発が進む横浜市では自然に恵まれている地域です。



▲侍従川上流 (写真提供：神奈川県)

たきがわ 滝の川

滝の川は、神奈川区の片倉うさぎ山公園に源を発し、支川の反町川と合流し、横浜港に注ぐ延長約3.5kmの準用河川です。

かつて河川だった上流部は下水道整備と合わせて暗渠化され、その上部はせせらぎ緑道として面影を残しています。



▲滝の川中流



ぜんまがわ 幻の水系 禅馬川

かつて、久良岐公園付近を源流として磯子小学校の脇を流れ磯子・海に見える公園付近で海に注ぐ「禅馬川」が存在しました。上流区間や支川でなく、水系そのものがなくなったのはこの川だけです。昭和54年に準用河川の役目を終えて、今は道路や下水道として市民の生活を支えています。流路が残るのは下流の一部のみですが、橋の痕跡など今も昔の川の流れるを感じる遺構があります。



禅馬川の橋の痕跡 (竹の橋)